

第 38 回日本看護歴史学会学術集会市民講座 No.1

8 月 11 日 ふるさと会館 13:00~14:30

伝統の技 手漉き和紙宇陀紙 6 代目から 7 代目につなぐ

講演 表具用宇陀紙選定保存技術保持者福西和紙本舗 6 代目福西正行氏・
7 代目福西安理紗氏

福西和紙本舗は、吉野手漉き和紙の伝統を守り続けてきました。

厳格に妥協することなく伝統技法を守り、現在でも一枚一枚天日で乾燥し続けています。

昔ながらの方法で漉く福西和紙本舗の手漉き和紙「宇陀紙」は、日本の文化財（国内のみならず、海外の美術館に收藏されている日本の書画）を修復するために、無くてはならない和紙として現在もご利用いただいています。

さらにその用途は、修復だけでなくさまざまな方面（書、工芸品・美術品・製品の素材）に広がりを見せています。

生活の中で手漉き和紙を利用する機会は減少するばかりですが、この伝統を絶やすことなく次世代への伝承者の育成することも務めだと考えています。

<http://fukunishiwashihonpo.com/contact.html>



写真 2024 年 3 月 3 日 読賣新聞掲載